

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なないろStudy2nd(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日	～	令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日	～	令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせた学習課題の提供。	参考書やインターネットにあるデータだけでなく、個々の能力に合わせて作成した学習を取り組んでいた。利用者の好きなもの、興味があるものを用いて学習課題に取り組むことで、学習意欲を伸ばすことができた。	日々、子どもたちの学習状況を職員間で共有し、必要な学習課題、支援方法を模索していきたい。
2	学習後の自由時間にみんな遊びを取り入れている。	学習・ビジョントレーニングは個別になるため、お友だちとコミュニケーションを取るためにみんな遊びの時間を取り入れている。自分の意見が通らない時の気持ちのコントロール方法や、譲るなど、ソーシャルスキルを身につけること、また小集団で遊ぶ楽しみをすることを目的としている。	今まで一人でできること(本を読む、塗り絵をする)がしたくて、みんな遊びをやりたがらない利用者が多かったため、終わった後に自分の好きなことをする時間を確保した上で、みんな遊びに参加できるようにしていきたい。
3	遊びの内容を学習にリンクさせた。	プリント学習等、机に向かって学習することへの負担を減らすため、楽しみながら学習する遊びをみんな遊びに取り入れた。 例：ツナ漢字(漢字の単語を作るカルタ)、Halli Galli(フルーツが5個になったらベルを鳴らす)など	文字への興味・数字の理解がすすめられるように、様々な遊びを準備していく。また低学年の利用者にも理解しやすい遊びを取り入れるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や学校、他事業所との連携があまり取れていなかった。	保護者とは送迎時に事業所での様子を共有し、また半年に一度、面談を行っているが、学校や他事業所との連携がなく、支援の方向性が一致していないことがあり、支援内容に迷うことがあった。	保護者とは、これまで通り送迎時や面談の際に様子を共有し、必要に応じて学校、他事業所とも連携を取っていきたい。
2	個室がないため、学習に集中できない場合がある。	学習を行う部屋とビジョントレーニングを行う場所に仕切りがなく、気になって学習に集中できない利用者がいた。また話し声が気になり、学習の手が止まってしまうこともあった。	ビジョントレーニングの場所をパーティションで分け、またビジョントレーニングの音量も下げた。学習机を長机から個別の学習机に変えた。レイアウトはまだ模索中だが、集中して学習に取り組める環境にしていく。
3	利用者同士、コミュニケーションを取る機会が少ない。	学習に特化しているため、個別に対応することが多い。最後にみんな遊びを取り入れているが、学習時間が長引き、遊べない時間もあった。	学習に関してはこれまで通りに対応し、上記に記しているように学習に集中できる環境を整える。学習、ビジョントレーニングをスムーズに進めて、利用者同士で遊ぶ時間を確保していきたい。